





受けた。

この『幼児の教育』の編集にたずさわった時期こそ、私自身の人生の転換期であり、私は自らの人生の方向を決定すべく、心の中で大格闘をしていた時と重なる。

一九六七年六月九日の夜、私は人生の転機ともいべき決断を自らに科した。それはキリスト教伝道者として救世軍に身を投じることであった。なぜ救世軍であったのか。それは父も母も救世軍士官であり、日本の救世軍の創立者といわれる山室軍平は、母の叔父である。

私は児童学科に学び、子どもと共に歩む人生に限ぎらない魅力を感じ、到底捨て去れないものがあつた。その決定は神がしてくださつた。児童学に関する魅力をそのままにその執着心から開放され、その日「神があなたを選んだ」という聖書の言葉に従つた。キリスト者であられる津守先生は、「献身以外の理由だつたら止めさせないけれど」といわれ私の決断を祝福してくださつた。現在は、小さな単立教会の牧師として、この時代の荒波に翻弄されながら船底に安らかに眠りたもう主に信頼して船旅を楽しんでいる。そしてあの時の決断が間違いでなかつたことに感謝している。

(敷島聖書福音教会牧師)

